



尼崎医療生協 7月豪雨災害支援ニュース

第2号 2018年7月31日

尼崎医療生活協同組合

第2陣より、車での移動となり4名が参加しました

支援日の7月28日（土）ということもあり、台風12号の影響で倉敷市ではボランティア中止となったため、急遽、岡山市北部ボランティアセンターへの参加となりました。

（以下、概要報告です）

今回の支援は岡山市周辺での支援でした。

岡山市役所にある支援センターにて支援を必要としている方の自宅などにボランティアを派遣していく形でした。台風12号の影響なのか、市役所内は閑散としており、ボランティアに来られている方が少ないように感じました。

支援内容と自分たちの状況（支援人数、運転できるか、自家用車が出せるかなど）をすり合わせて、支援先を決めました。私達は、岡山市から車で30分ほど行ったところにある新築のお家に支援に入ることになりました。自宅の隣を流れる川が氾濫し、床上10cmの浸水被害を受けていました。床一面が泥で覆われ、壁はカビが生えている箇所もありました。

主な作業内容

- ・泥に掃き出し、床の水拭き（3～5度拭き）
- ・床下に溜まった水の運び出し
- ・家具などの掃き掃除



7/19 現在支援募金額 206,859 円

(Aさん)

市役所にて支援についての注意事項などの説明を受けた後、支援資材を受け取り現場に向かいました。支援者は全部で10名。作業時間10時～13時。1部屋2名ずつで手分けして床の土を拭き取り、3～5度拭きした後、消毒水で消毒する作業でした。床上の泥出し、水拭きは一定完了しましたが、住むとなるとまだ、清掃が必要だと感じました。依頼現場がどのような状況だったか、今後、必要だと思われることを市役所職員に報告し、終了しました。今回、真備町ではなく岡山市に支援に入りましたが、支援を必要としている人はたくさんいること、人手がまだまだ必要であることを感じました。

(Bさん)

道中の景色は、そこまでひどい状態ではないと思いました。

僕らが担当したお宅にいざ入ってみると外観とは違い、中は汚れたままでした。泥のあともひどく床下にはコンクリート基礎の上に水がたまりっぱなしでした。このような家が何件もあると思うと、まだまだ人手が必要だなと思いました。支援できることは限られており、最後まで出来ないことが少し悔しいなと思いました。

(Cさん)

老後のために建てた家でしたが、住む前に今回の水害に遭われたとのことでした。隣を流れる川の位置から家が少し低い位置にあり、一気に床上まで水が入ってきたとのことでした。床は何度拭いても泥でタオルが汚れる状態でした。台風の影響か暑すぎるといったこともなく、適宜休憩を取りながら作業をすすめました。床上の泥は一定取り除くことができ、あとは業者に頼らざるを得ない作業だけが残りました。

今後の支援に向けて支援先を決める際に、ある程度要望があります。

- 軽トラックが運転できる方
- 自家用車が出せる方
- 人数 など

今回支援者3名、運転者1名でしたが、効率よく支援に入るのであれば、支援者4名、運転手1名など支援者が偶数であるほうが良いと思われます。全員で動くとなるとなかなか支援先が決まりません。2名ずつで分かれてなどでも良いと思います。また、自家用車が出せることが求められます。支援物資を積んで行くことから、ある程度の大きさの車であることが求められます。(今回はノアでした。ヴィッツなどになると厳しい) また、市役所で支援物資が豊富に用意されていました。こちらから持っていた量と同等の量を支給していただきました。支援に入ることも大事ですが、物資なども支援する必要があると感じました。